



新橋小学校

学校だより

令和5年6月30日
令和5年度 第4号

梅雨の候、夏至の頃

校長 西尾 琢郎

沖縄地方の梅雨明けが発表され、いよいよこれからは、本州地域の梅雨が本格化する季節です。これまでのところ、2度の台風接近に伴う大雨を除けば、それほど雨の日が多くないという印象も受けますが、統計的にもこれからが「梅雨本番」です。登下校時の安全確保を含め、学校としても注意を払ってまいりますので、ご家庭でも、朝の天気予報チェックと、それに合わせた身支度にご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

さて、夏休みまで残すところ3週間ほどとなりました。本市の小学校の夏休みは、例年、ほぼ梅雨明けの時期と重なるタイミングでスタートします。子どもたちも、きっと夏休みを心待ちにしていることでしょう。そんな梅雨明けの時期、毎年私の胸をよぎる思いがあります。それは「せっかく梅雨が明けたのに、もうすっかり日が短くなっちゃったなあ…」という、どこか残念な気持ちです。

それもそのはず、もっとも日が長い夏至の日は、関東地方の梅雨明け（平年値）に先んじることおよそ1か月、今年で言えば6月21日でした。梅雨明けの頃には、すでにはっきりと感じられるくらいに日が短くなっているわけです（※欄外の【マメ知識】もご覧ください）。梅雨の期間は当然ながら雨や曇りの日が多く、日没をはっきりと意識しにくいことも、日没時刻の早まりに気づきにくくなる一つの理由です。せっかく「さあ夏だ！」と意気込んだところに、気づいてみれば、もうすっかり日が短くなっている。これが私の「残念」の理由なのだと思います。こうして考えると、私たちの気持ちの動きは、自分自身の「期待」と現実とのズレによって、大きく変わってくるものようです。

このことから「期待しなければ、がっかりしなくて済む」と考えることもできるでしょう。しかし私はこう思います。「正しく知ること、正しい期待を抱く」ことの大切さです。正しく知る、というのは、何も知識のことだけではありません。例えば打ち込んでいるスポーツで、自分がどれほど練習に打ち込んだかを、単純な感覚だけでなく、量や質までしっかり理解し、その結果、競争相手に対して自分がどのくらい力を付けているかなどを客観的につかむことができていれば、次の試合でどんな成果が望めるかも、おのずと分かってくるものではないでしょうか。結果が悪かったとしても、ただ落胆するのではなく、その先につながる気付きを得て、もっと前向きに取り組むことができるかもしれません。

来たる夏休み、子どもたちにはぜひ、自分自身の今の姿を「正しく知る」ことにチャレンジしてもらいたいと思います。勉強でも、スポーツでも、遊びでもなんでも構いません。自分が何かとどのように、どのくらい向き合っているのかを客観的に知り、そこから先、どうすれば自分の力を伸ばしたり、もっと楽しんだりできるようになるかを考え、行動に移してみてほしいのです。夏休みのおしまいに「残念」でなく「もっと、もっとやってみたい！」が胸にあふれるような、そんな過ごし方を、おうちの方も一緒に、ぜひ考えてみてください。

【マメ知識】

私たちが「日の短さ」を一番感じる日の入り時刻に限って言えば、実は夏至の日が「一番日の入りが遅い日」ではありません。数日ではありますが、夏至の日より後に「一番日の入りが遅い日」が来るのです（同様に、「一番日の出が早い日」も夏至の日ではなく、こちらは夏至より数日前に訪れることが知られています）。日の出日の入り時刻の変化は、一日平均では数十秒といったところですが、日の入り時刻について言えば、8月から10月にかけては、1日ごとに1分以上も日の入りが早まっていきます。「秋の日はつるべ落とし」などと言われるのも、これが理由なのでしょうね。